2026年度 第12号 松戸保健所感染症情報

発行日： 2026 年 9 月 18 日（金）
発行：松戸保健所（松戸健康福祉センター）疾病対策課
2026 年第 36 週 2026 年 8 月 31 日 ～ 9 月 6 日
2026 年第 37 週 2026 年 9 月 7 日 ～ 9 月 13 日

保健所からのお知らせ

９月２４日から３０日は **結核･呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌症啓発週間**です。結核は現在でも国内の主要な感染症です。
新登録結核患者は高齢者に多く、およそ６割が６０歳以上です。若年の外国生まれの患者の割合が増加しており、２０歳から２９歳の新登録結核患者の９割を占めています、

全数把握対象疾患

松戸保健所管内で報告のあった疾患のみ掲載しています。
全数報告集計表については、別添をご覧ください。

		2026年第36週~第37週	累計（2026年第1週～2026年第37週）
2類感染症	結核	7	79
4類感染症	E型肝炎	1	5
	レジオネラ症	1	19
5類感染症	急性脳炎	1	20
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	3
	梅毒	2	29
	百日咳	3	24

定点把握対象疾患

上段：報告数
下段：定点当たり報告数（定点一か所から一週間にどの位の患者報告があったかの平均値）

前週比： ↓減少 →横ばい ↑増加

小児科定点

疾病名	前週比	第37週	第36週
RSウイルス感染症	↑	8 0.73	3 0.27
咽頭結膜熱	↑	2 0.18	- -
A群溶血性レンサ球菌感染症	↓	25 2.27	27 2.45
感染性胃腸炎	↓	68 6.18	84 7.64
水痘	↑	1 0.09	- -
手足口病	↓	27 2.45	34 3.09
伝染性紅斑	→	- -	- -
突発性発疹	↓	3 0.27	4 0.36
ヘルパンギーナ	↓	5 0.45	7 0.64

数値は報告の追加、取り下げ等により、今後変動することがあります。

急性呼吸器感染症

眼科

疾病名	前週比	第37週	第36週
インフルエンザ	↑	182 9.1	104 5.2
新型コロナウイルス感染症	↑	46 2.3	44 2.2
急性呼吸器感染症（ARI）	↑	1947 97.35	1658 82.9
急性出血性結膜炎	→	- -	- -
流行性角結膜炎	↓	- -	1 0.2

※急性呼吸器感染症（ＡＲＩ）
咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか１つ以上の症状を呈し、
発症から１０日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

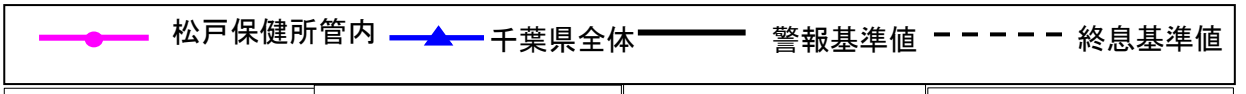
【松戸保健所管内居住結核新登録患者数】

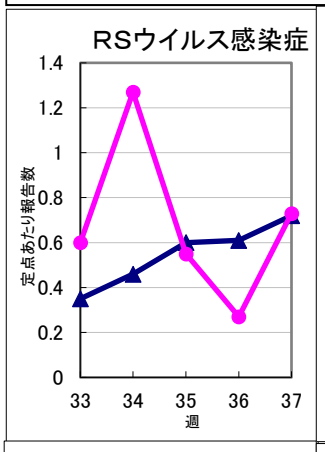
活動性結核（①～④）	
①喀痰塗抹陽性	3
②その他の結核菌陽性	0
③菌陰性その他	1
④活動性肺外結核	4
無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）	4

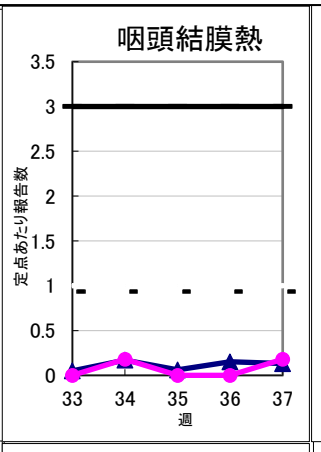
【集団感染発生状況】

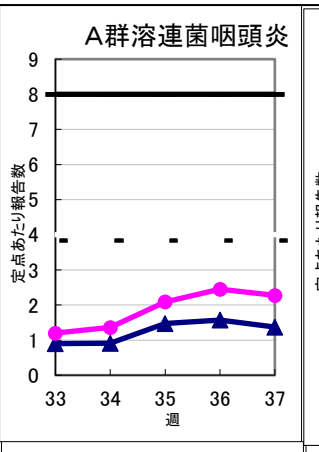
疾患名	報告数
ヒトメタニューモウイルス感染症	1 件（保育施設）
インフルエンザA型	1 件（保育施設）

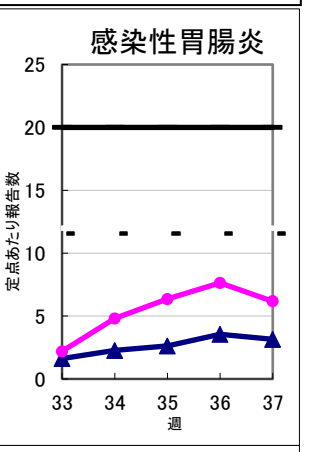
松戸保健所管内の感染症発生動向（直近5週）

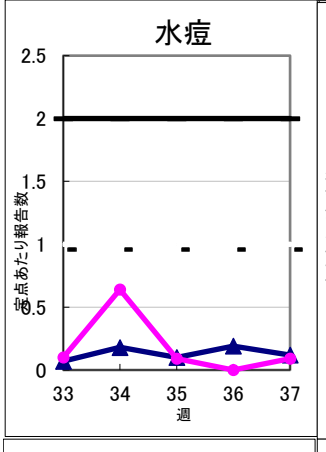


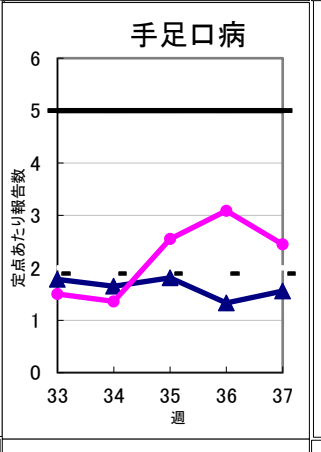


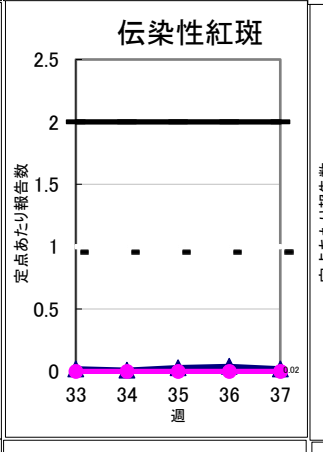


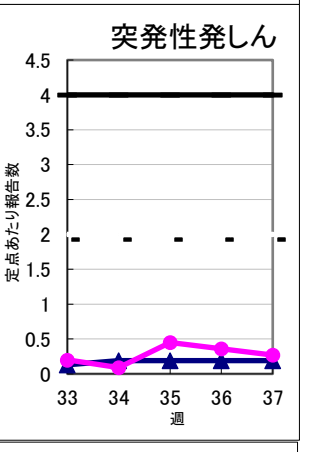


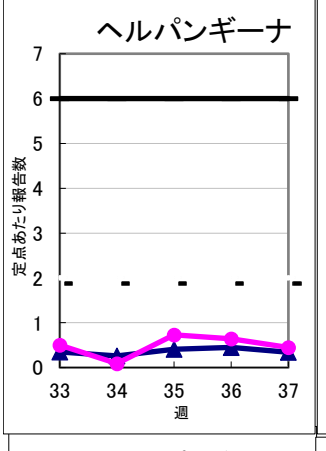


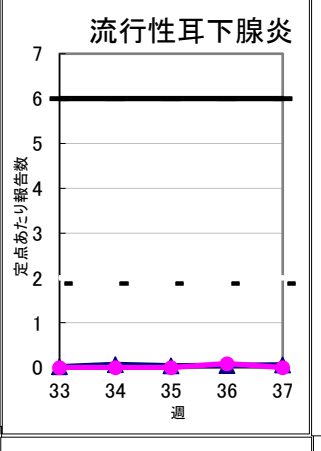


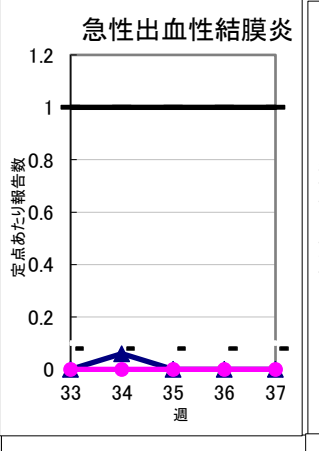


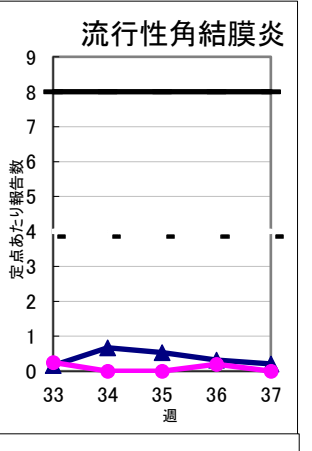


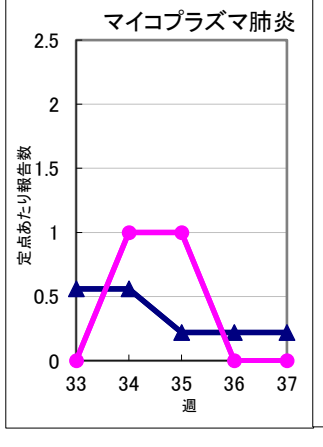


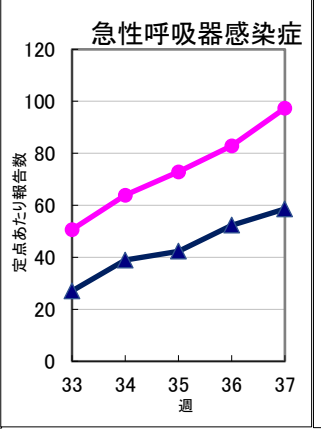


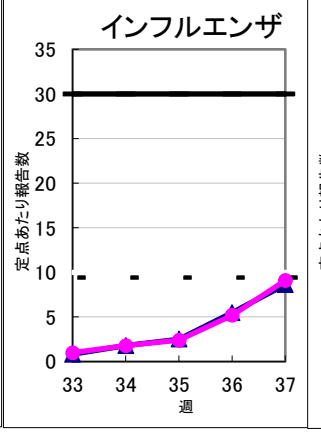


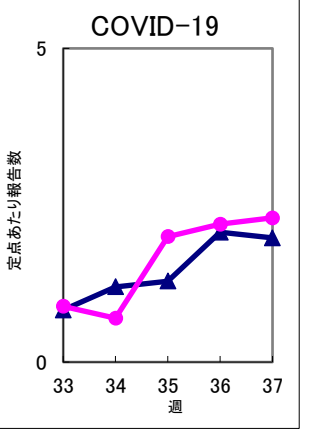












松戸保健所感染症情報

2026年度 第12号

結核・呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌啓発週間　９月２４日～３０日

結核

結核は、現在でも国内の主要な感染症です。
新登録結核患者は高齢者に多く、およそ６割が６０歳以上です。
また、若年の外国生まれの患者の割合が増加しており、２０歳から２９歳の新登録結核患者の９割を占めています。
結核は、２０２６年第３７週に千葉県内医療機関から２０例の届出があり、累計５６７例となりました（図１）。

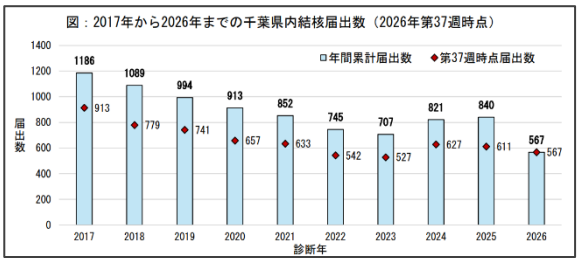


図１：千葉県結核・感染症週報　2026年　第３７週
出典：　wr2637.pdf

呼吸器感染症

インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症などがあります。
今年は、すでにインフルエンザが流行入りしました。

非結核性抗酸菌症

環境中に広く存在する非結核性抗酸菌（non-tuberculous mycobacteria：NTM）によって発生する感染症です。長引く咳、痰、発熱といった症状が代表的です。

以下のチェックリストを参考に、感染症予防対策に努めましょう！

- ２週間以上せきが続く場合→結核を疑い、重症化と感染拡大の防止のために受診
- 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- こまめな手洗い
- 室内ではこまめに換気する
- マスク着用を含むせきエチケット
- 人混みや繁華街への外出を控える
- 適度な湿度の保持

麻しん（はしか）について

発生動向

千葉県では、2026 年第 37 週に県内医療機関から麻しんの届出はなく、2026 年の累計は 32 例です。全国では、2026年第 36 週に東京都と福岡県で各 1 例の届出があり、2026 年の累計は 552 例となりました（図２）。
国内外で麻しん届出数が増加しており、今後も更なる増加の恐れがあるため、引き続き発生動向に注意が必要です。

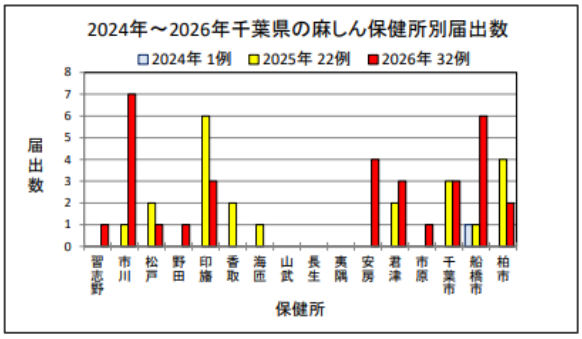


図 2千葉県の麻しん発生状況 2026 年第 37 週
出典：　202637measles.pdf

感染症について

麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染力が非常に強い感染症であり、免疫を有していない人が感染すると、ほぼ１００％発症すると言われています。

母子手帳などで予防接種歴を確認
→ ・定期予防接種を２回受けていない ・予防接種歴が不明
→ かかりつけ医などに相談し、予防接種を検討しましょう



２回の予防接種をすると、、、

- **発症予防**
  免疫ができ、ウイルスを早期に抑えこむことで、発症を防げる
- **重症化予防**
  麻しんに罹患しても、症状が軽く、発熱などの症状の強さ、肺炎や脳炎などの重い合併症のリスクを下げれる

参考文献
（１）千葉県結核・感染症週報　2026年　第３７週　wr2637.pdf
（2）千葉県の麻しん発生状況　2026年第37週　202637measles.pdf
（3）麻しん（はしか）　麻しん（はしか）｜厚生労働省
（4）結核・呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌症啓発週間　結核・呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌症啓発週間／千葉県